

平成 27 年度 静岡大成中学校 学校評価書

評価対象	評価項目	具体的取り組み(計画)	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
①基本的生活習慣や模範意識の確立を図り、社会人として通用する生徒を育てる。	社会や家庭、学校のルールやマナーをしっかりと守らせる。	・お互いが安全で心地よく生活していくルールについて、生徒・家庭・教師それぞれが真摯に向き合っていくことで信頼関係を築きながら共通理解を確立する。また自らも社会や職場のルールを守る。職員室での対応、言葉遣い等のマナーを指導する。	A	・学校や社会のルールとマナー、言葉遣い等は日常的に全教員で指導することが出来た。しかし、言われる前に正す、生徒間で注意し合うといった自律心の向上が次年度の課題である。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学時代は、最も多感な時期であり、かつ精神的に不安定な時期でもある。個々の生徒と向き合うこととなる先生は大変であるが、是非、粘り強く指導に当たってもらいたい。 ・ スターライトクラスの見送りは、午後 8 時半頃と遅い時間帯となるので、しっかりと誘導して安全を期してもらいたい。 ・ 携帯電話は朝、学校が預かるとのことだが、犯罪に巻き込まれる危険性が高いので、特に学校外での使い方について、保護者を巻きこんで、ルール決めをしていただきたい。携帯でトラブルがあると、生活面だけではなく、勉強面にも影響がでる。 ・ LINE についても、中学校として、時間帯の制限や禁止時間等を決め、保護者がそれを熟知するように説明する等の対策を講じてもらいたい。LINE に関する事故は、本人にも学校にも多大な影響が出るので是非、早急に検討してもらいたい。
	あいさつの大切さや感謝の心を育てる。	・煎茶の授業の中で「礼の心」を習得し、部活動や日常生活の中で実践していく。挨拶の励行については教師が率先垂範し、生徒の実践に繋げる。	B	・今年度も「挨拶がしっかりとできる学校」を目指し、ほぼ達成することができた。一方で、煎茶の授業で培ったはずの「礼法」「感謝」といった部分はまだまだ足りないと感じている。	B	
	服装や頭髪を正しく整えさせる。	・月 1 回の風紀検査だけでなく、服装容疑については日常的に目を配り、指導していく。	A	・風紀検査があるからということではなく、日常的に気になる生徒に声掛けをおこなった。特に男子生徒の制服の着方にだらしなさを感じる場面があったので徹底していきたい。	A	
	身の回りの整理・整頓、校内美化に自主的に取り組ませる。	・身の回りの整理・整頓が学習への集中力につながることを理解させる。掃除や校内美化については、自主的に行動することで星野心を身に付けさせる。	B	・毎日の掃除については一生懸命取り組む姿勢が見られたが、個々のロッカーの整頓については、まだまだ改善すべき生徒が複数いるように思う。	B	
	基本的な生活習慣の確立を図る。	・規則正しい生活習慣を確立させ、遅刻欠席を減らし、時間を守る習慣を身に付けさせる。集団行動・集団生活の中では 5 分前行動の励行を呼びかける。	A	・病気や通院以外の理由で遅刻する生徒はほとんどいなかった。宿泊訓練で 5 分前行動の出来ない生徒に注意する場面があったのが残念であった。	A	
	生徒の健康安全に留意し、危機管理体制を整備する。	・登下校の交通安全を心掛け、交通安全に関する意識の向上や公共交通機関でのマナー向上に努める。 ・携帯電話の講習会を実施し、インターネットや LINE、SNS などの危険性について繰り返し指導をし、理解を深めさせる。	B	・スターライトクラス後は集団下校をしており、安全面には常に配慮している。しかし、慣れからか、集団が前後に広がる場面が何度かあったので、今一度教員も含めて意識づけしたい。 ・年度当初に講習会を開いたが、LINE・SNS などが原因の人間関係のもつれ等が何度も繰り返されてしまった。ネットパトロールの力もお借りしながら、SNS などによる問題を根絶させたい。	B	
②授業を大切にし、授業力の向上を図り、確かな基礎学力を持つ生徒を育てる。	基本的学習習慣の確立を図り、主体的に取り組める姿勢を養う。	・各教科独自の効果的な学習方法を教授し理解させる。学校生活は授業が最優先だという意識を持ち、チャイムと同時の授業開始を徹底する。 ・始業・終業のあいさつの徹底と時間の励行、机上の整理整頓の指導を行う。	B	・どのクラス、教科もチャイムと同時に始める意識付けはできていたように思う。2 年生の中だるみが見られた時期があったので、受験を意識させながら、落ち着いた学習態度を徹底させたい。 ・4 月当初に確認したイスを机の中に入れ、机の左側に立ち挨拶をするといった点が時間と共にうやむやになっていった感がある。年間を通じて徹底させたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校は、公立高校の受験を推奨しているので、生徒の目的意識が比較的明確で、他の私学に無い特徴を持っている。これを上手に活用できれば凛とした素晴らしい中学になる。 ・ 中学時代は、先生よりも上級生、特に3年生の姿勢を見て行動するので、上級生の指導に十分力をいれてもらいたい。 ・ 教えることにより前進させることと、自分で考えさせることとの比較は難しいが、結局的には、その生徒に目的意識を持たせることが重要であり、そのような指導を工夫していただきたい。 ・ 中学は、授業公開に前向きであると共に、保護者の授業参観も積極的と聞く。授業力の向上にこれからも頑張ってもらいたい。 ・ 授業評価アンケートは、人気ランキングに陥るとか主観的すぎるといった非難もあるが、やはり全教員を比較すると相当程度客観的な状況が浮かび上がる。そういう面では今後も十分役立てていってもらいたい。
	課題・ノートの点検・確認テスト等、学習内容及び学習方法の定着を図る。	・宿題の未提出や学習内容の未理解部分は、素早く対応し、常に学力の向上を目指す。 ・学習意欲に繋がる級別テストや朝自習の充実を図り、計画的に取り組ませる。	B	・質問に来た生徒については丁寧に教えてあげる姿がどの先生も見られた。しかし、それに甘えて自分でなんとかするという態度が薄れていかないか心配である。 ・朝学習(級別テスト)については、毎日担任がプリントを用意し取り組ませることができた。が、合格率が伸びず苦勞している。やはり、自主的に学習する態度の定着が必要であろう。	B	
	教材研究や授業公開に積極的に取り組み、「授業力」の向上を図る。	・やる気を引き出す授業を工夫し、学習の伸びを確信できる生徒を育てる。 ・授業公開・研究授業に積極的に取り組み、指導力を養い、生徒が学ぶ楽しさを実感できる授業を心掛ける ・教科会や中学部で指導内容・指導方法・成績評価について検討し合い、中学部の授業の充実と学力向上を目指す。	B	・授業づくりについては、どの教科もどの教員も常に意識して勉強している部分であるが、学習の伸びにつながっているかどうかという点では改善の余地がある。 ・校内での授業公開や研究授業については積極的に取り組むことが出来た。生徒が学ぶ楽しさを実感しているかどうかという点では改善の余地がある。 ・学年会議では毎回授業の様子について情報交換がなされた。「生徒の学力を伸ばす」という点については、教科・クラスの枠を越えて全員で取り組むことができた。	B	
	生徒による授業評価を真摯に受け止め、授業の改善に努める。	評価から自分の授業を振り返り、課題を確認して、改善のための努力をする。	B	・授業評価は「授業力」を向上させるためにもっとも効果的なツールと捉えている。今後も「わかる授業」「できる授業」に取り組んでいきたい。	B	
	教務内規の徹底と個に応じた指導を心掛ける。	一人一人の学習状況をクラス担任と教科担任が常に情報を共有し合い、教務内規を念頭に置き指導にあたる。	B	・おかげさまで少人数のクラス編成で運営させてもらっているので一人一人の状況や課題、成果について常に情報を共有することができた。	B	

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった

評価対象	評価項目	具体的取り組み(計画)	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
③進路意識の高揚を図り、進路目標の実現にきめ細かな指導体制をとる。	第1学年は自己理解とともに将来を見通した進路意識・目標づくりを図る。第2学年は目標達成のための学力の充実とともに職業観を育てる。第3学年は目標達成のために最大限の能力を発揮させ進路の実現・自己実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・三年間の進路指導の流れを理解・熟知し、生徒の個性や保護者の考えを参考にした進路指導を心掛ける ・卒業生を招き、先輩方が将来の夢を抱えながら高校生活を送っている話を聞かせ、在校生を奮い立たせるための進路講話も開催する。 ・早い時期から様々な入試説明会や学校説明会、授業見学会などへの参加を促し、進路意識を育て、目標を持った学校生活を送らせる。 ・生徒・保護者との信頼を深めるために面接等を繰り返し、進路決定に至るまでの意志の疎通を十分に図り、生徒一人一人の進路に責任を持った指導をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の発達段階や進路に対する意識を考慮しながら、指導することができた。特に2年生について、漠然としたものではなく明確に志望校を言える指導をしていきたい。 ・夏休みには10名以上の卒業生が来校し、3年生だけでなく1.2年生に対してもアドバイスをしてくれた。受験に対する意識を変える良い機会となった。 ・3年生については、全員が2校以上の説明会に参加した。1.2年生については部活動との絡みがあり、なかなか説明会に参加できないのが現状である。 ・夏休みの三者面談を皮切りに、定期テストや外部模試の結果が出るたびに本人・保護者と密に連絡を取り、志望校を決定した。毎年のことであるが、もう少し「気づき」を早くしたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路を決定していくに際し、身近な先輩から話を聞くのが最も効果的ではないかと思う。本年度も10人の先輩を招聘したとのこと、このまま続けてもらいたい。 ・資格の取得は本人の自信にもつながるところであり、是非、3年間で少なくとも1つは資格を持たせるよう指導の工夫をお願いしたい。 ・スリーライト（スターライト、サンライト、トワイライト）は本校の特色であり、継続して培ってきたノウハウの蓄積も多大である。マンネリの傾向が多少みられるということであるが、是非、全教員で知恵を出し合い、対応策を見つけて実践していただきたい。
	進路に関する情報や知識の習得に気を配り、適切な進路指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内テストだけでなく、外部模試を活用し、テスト結果を基に生徒一人一人の学習成果を点検し、その後の取り組みを指導していく。また生徒だけでなく、教師も入学説明会等に参加し、進んで情報収集を行い、時代に即した進路指導の研究に心掛ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・統一テストのデータを基に、生徒一人一人の適性に合った進路指導を行うことが出来た。公立の学力調査に参加させていただけの働きかけをしていきたい。 	B	
	進路の実現に向けて最大限のバックアップができる体制を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・普通の授業に加え、スリーライトクラスをより一層充実させ、進路実現のための実力をつけさせる。競争力や忍耐力を育てる中で、生徒同士で励まし合う心も養う。各種検定の受験者数及び合格者数を増やす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・スリーライトクラスについては、生徒の取り組みについて多少マンネリ化が出てきているように感じる。さらに、意識を高める指導をしていきたい。各種検定については3年生で1つも合格していない者が数名おり、改善が必要である。 	B	
④部活動・生徒会活動・学校行事の充実と積極的参加を促す。	部活動の活性化に努め、学生生活に潤いと活気を与える。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動を通して、体力・精神力を向上させ、挨拶や言葉遣い、礼儀作法を身に付けさせる指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・勝利至上主義に流れがちな部分があるため、まずは礼儀やマナー、チームワーク等が大切だということに気付かせたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は運動場が狭く、部活動にも工夫が必要であるが、学校として、強化したい部を作って優先使用等を図っていくことも一つの方法ではないかと考えている。ただし、この方法は必ずしも生徒獲得には有効とは限らない。 ・文化部の創部についても、引き続き検討をお願いしたい。
	豊かな学校生活を目指し、行事や生徒会活動への積極的な参加を促し、クラスや学年の団結力や自治意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や活動の意義を理解させ、主体的に参加できる働きかけをする。また、クラスや学年の一員としての役割を果たす指導をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や体育祭、その他さまざまな行事について積極的に取り組む姿が見られた。もう少し主体的に参加する態度を身につけさせたい 	B	
⑤信頼される学校づくりをめざし、教育の特色化・魅力化を推進し、広報活動を利用して、積極的に外部に発信する。	ホームページの充実を図り、生徒の活躍する姿を発信し、常に新鮮な情報を外部に提供する	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを定期的に更新するための情報作りのために、それぞれの立場で新鮮な話題を積極的に提供する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者に任せっきりであった。しかし、各クラス担任は学級通信等で保護者へタイムリーな話題を提供することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会や入試説明会への参加を促す媒体としてもHPは有効な手段であり、また、頻繁にリニューアルしているということであり、個々の教員がHPと接触する機会が少ないとはいえ、学校としては十分HPの機能を果たしている。 ・私学教員として、全員が広報活動、入試活動に携わるという当初目的は達成しており、先生方の日々の努力の賜物であり喜ばしい。
	PTAや同窓会・桜凜会との相互理解を深め、連携して学校の発展に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA行事や同窓会などには積極的に参加し、生徒の具体的な活動や活躍する姿を発信する。 ・保護者同士の相互理解を深めるため、クラス懇談の工夫をし、更なる連携に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・研修旅行、同窓会等へは部活動ためほとんど参加することが出来なかった。バルーンバレーについては生徒とともに手伝いをした。 ・学級PTAでは、担任が一方的に話をするだけでなく、保護者同士が懇談する機会を積極的につくることが出来た。 	B	
	本校の教育の特色や魅力に繋がる企画を進め「少子化に負けない学校づくり」に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会・入試説明会などに積極的に係り、全員参加の広報活動・入試活動を心掛ける。 ・地域交流を進め、地域の住民と共に存在する学校づくりを目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学の説明会等は、常に中学部の教員全員で取り組むことが出来た。次年度はさらに、一人一人の活躍の場を設定したい。 ・生徒会や部活動の単位で挨拶運動や奉仕作業を積極的に行い、地域の方々に愛される学校づくりに努めることができた。 	A	
⑥安全・健康・環境・道徳、それぞれの教育をとおして「命の大切さ」を養う。	人権・道徳・安心安全教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・在り方・生き方教育や自他の命を大切に作る心、物を大切に作る心をあらゆる場面を通して指導する。 ・いじめ等の調査を継続的に実施し、いじめゼロをめざす。 ・防災訓練を年3回実施し、危機管理能力を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業だけでなく、学年集会や日常生活の中で、中学生らしさとは、大成中学生のあり方とはについて、話をしてきた。生徒への浸透の部分でまだまだ不十分であった。 ・いじめアンケートだけでなく、毎日の計画帳のやり取りの中で生徒の悩みやいじめについて把握し、対処することが出来た。 ・雨天で中止となってしまった時もあったが、実施された防災訓練では迅速かつ安全に行動することが出来た。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の悩みやいじめ防止に工夫されている様子が伺われて安心した。 ・心に問題を抱える生徒について、家庭との連携や保護者との協力関係に苦慮しているとのこと、難しい問題であるが、より一層の努力をお願いしたい。
	心身の健康の保持増進のための教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食指導や心の健康指導に積極的に取り組み、必要ならばスクールカウンセラーの利用を促す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本校において、心に問題を抱えている生徒の多くは家庭環境に問題があり、学校の対応だけでなく、保護者や家庭の協力を得ることを大切である。その協力がなかなか得られないことに苦慮している。保護者との対話を繰り返しながら改善していきたい。 	B	

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった